

【質疑応答】

読売新聞 少子化の中でですね、中学生の数が増えて定員を増やしたと思うのですが、少子化の中で中学生の数が増えている要因を教えてください。

教育長 はい、それは学校経営戦略推進課長お願いします。

学校経営戦略推進課長

第2次ベビーブームの〔影響で生徒数が〕ピークだった平成元年頃の中〔学〕3〔年〕生というのが、今ちょうど40代半ばぐらいになっていまして、これがかなり晩婚化が進んでいるというようなところで、本当は第3次の山ができるべきところで、子供の増加の山ができてないというようなところで、ちょっと横ばいからジグザグした感じで近年動いてきているというところがあります。そうは言いながら、中長期的にずっと減少傾向というのは変わっていないので、これから先もですね、15年先を見ると、まだまだ生徒の数は減っていくというのが見えているという状況があります。そういう中で今回の、増加が一時的にあったという状況です。

読売新聞 昔みたいに皆さん同じ年に子供を産まなくなったので、〔子供の数の増減が〕ジグザグして、今年はずっと増えたということですか。

学校経営戦略推進課長

はい。

読売新聞

ありがとうございます。

N H K

学力調査〔の資料〕の今後の予定のところ、いつ臨時休業になるか分からないということで、小中学校等でオンラインによる教育活動ができるようにサポートを進めているとあるのですが、現状、オンラインでの教育活動ができているところというのはどれくらいあるんでしょうか。

教育長

はい。鋭意ですね、各市町教育委員会の状況につきましては、県の教育委員会の方の学校教育情報化推進課を中心にサポートできるように体制整えておりますけれども。とにかくですね一度、今、Google Workspace for Education というのを一人1アカウント、各児童生徒、それから先生方にもお渡ししていますので、一度このオンラインの配信テストというのをとにかく訓練としてやっていただきたいと〔各市町教育委員会に対して〕お願いをしております。各市町によりまして、いろいろ状況の違いはございますけれども、今、子どもが聞いております内容としましては、一応23市町中、今月内に一度は必ずこの配信テストをやるといような市町が15市町〔あります〕。それから、10月末までには頑張りますと言っているのが8市町というふうには聞いておりますけれども、子どもも伴走させていただきたいと思っておりますので、どうかですね、今もう県がとか市町がとか言っていられないと思っておりますので、是非とも御活用いただきたいなと思っております。それと、今急にですね、学級閉鎖とかあるいは学年閉鎖、それから〔臨時〕休業というようなことが起こったり、あるいは、そうでなくても、様々な事情で学校に〔来られない子供がいる中で〕、感染がちょっと怖いからというようなことだったり、家族が心配だからということで、学校に来られないお子さんが多くいらっしゃると思っております。こういったお子さん方にも、できる限り学校の中の状況を、授業の様子を配信していただきたいということですね、まず一つ目はオンラインの配信テスト、それから子供たちがその授業の様子をずっと見られるように、オンラインでも参加できるような形で御検討いただくと、少しはですね、本当は会って話すが、対面で授業するのが一番なのですけれども、少しでも子供の心がですね、みんなの顔が見えたとか、学校の授業はこんな感じになっているんだということで、取り残されるというそういう心配感というのが少しでも薄まるかなと思っておりますので、市町教育委員会と一致団結、協力しながらこの件につきましては、是非とも解

決していきたいと思っています。

N H K 先ほどの今月内に一度、〔15 の市町で〕オンラインの配信テストをやるという理解でいいですか。

教育長 そうですね。はい。

N H K その 15 市町ということなのですが、おそらく今年度から、G I G A スクール構想によるタブレット端末の配布は始まっているはずなんですけども、まだやってないところがある、活用していないところがあるということなのではないでしょうか。

教育長 そうですね、ちょっとどこ〔の市町が〕ということは申し上げられませんが、配布がまだというような市町があるということは聞いております。ただ、ない場合でも自己所有のPCとかスマートフォン、それから、教育委員会〔から〕の貸与、貸し出すPCを利用して、その通信テストを実施するという形で、40人クラスがいてですね、一気にこうやるということが難しいケースもあると思います。例えば、お家にそういうWi-Fiがないとかですね、いろんなことがあると思いますけれども、一個ができないから全部できないというのでなくてですね、まずはちょっとやってみるというような、学校で例えば、先生のパソコンでもいいですし、架空の何て言うか、お家でやっているというふうに設定をして、家で帰って家でつなぐ方はそれでも良いと思いますし、学校で架空の家庭環境を想定して、一度でもみんなでつながってみるという練習をしておけば、今後、いろんな形でですね、この感染症だけじゃなくて、災害的なところがあって〔臨時休業が〕長期化した場合とかいろんなことが考えられますので、そうした時もクラスの友達の顔がですね、画面上で見えたら、やはりほっと〔安心を〕私たち大人もするものなので、子供もそうなんじゃないかなと思っています。〔それ〕で、今、配信状況のテストにも、県教育委員会のスタッフが立ち会っていますけど、様子見てたらですね、起きろーとかですね、子供が子供にオンライン上で声を掛け合ったりしている様子も見受けられますので、これは苦肉の策ではありますが、やらないよりも絶対やった方が良いのではないかと考えていますし、ここに対する私どものノウハウの提供というか、伴走はですね、本当に是非ともやっていきたいと思っていますし、今もう、鋭意やっているところです。

H O M E ちょっと重複しますがけれども、新学期が始まってまだ間もないんですけども、やはりコロナの感染予防〔のため〕、〔感染に〕不安があって登校しないという児童生徒もいると思うんですけども、この辺の実態把握ですね。正確な数はもちろん分からないでしょうけれども、大体例えば、〔登校しない児童生徒の割合が〕1パーセントなのか10パーセントだとか、およその感覚的な実態把握とそれに対する対応ですよ、今どのようにお考えでしょうか。

教育長 はい、ちょっと数の集計はですねなかなかできないんですけども、県の教育委員会の方で豊かな心と身体育成課、それから今年から立ち上げました不登校支援センターの方で、様々なお話を伺っております。これは、市町教育委員会とか、あるいは市町の教育長さん等々からいろいろ聞いておりますけれども、正直増えていきます。特にやはり、これは今に始まったことではないのですが、中学校の不登校が今、大体全国でも横ばいだとしたら、大体ここ数年で、小学校の不登校がやはり全国的にも増えておりまして、全国でも過去5年間で大体倍になっています。ちょっと今数字持ち合わせておりませんが、〔例えば、〕2万人が4万になっているとかそういう形です。今年になってからコロナでですね、いろんな様々な理由で休まれているので、これと言った断定はできませんけれども、やはり小学校に増えている

というふうに私どもも捉えていまして、これについては、不登校支援センターの方で、各市町教育委員会と連携して、SSR〔スペシャル・サポート・ルーム〕を設置してやってみたり。それと、SSRにも来られないお子さんなんかは、オンライン部活、オンラインクラブ活動という形で、画面の中に顔を出さなくていいよ、それから、本名じゃなくていいよ、ニックネームでもいいよという形でやっておりますと、向こうも喋りたいので、顔出したりとかしてくるという現象が今、見られつつあります。そういうところですね、学校に来られなくなった、あるいは来ていない原因がコロナであってもそうでなくても、とにかく子供たちの学びを止めないということで、不登校支援センターの活動を通じて、あるいはオンラインを、今もう、小中学校については1人1台GIGA〔スクール構想〕で持っているわけですから。ここを活用して、とにかく学びを止めない、あるいは、人との関わりを止めないというふうにしてですね、人間関係の形成に少しでも寄与できたらなと思っています。

H O M E     それとですね、緊急事態宣言が延長されまして、従来の例えば部活動の原則休止要請とかですね、分散登校とかそういった要請は、この延長に伴ってそれぞれ全て継続というか延長されますでしょうか。

教 育 長     基本的にはですね、緊急事態宣言でございますので、引き続き、同じような対応になるかと思っております。これはですね、長期化してしまうと子供たちの部活ができないとかですね、あるいはその行事等々の影響が出てしまうので、個人的にはですね、早く解いてやりたいという気持ちでいっぱいなんですけれども、やはり子供たちの安心安全を考えますと、なかなかちょっとこれは今すぐ解けるようなものではありませんので、差し当たっては、9月の末までは、基本的には同じ対応という形で思っております。

N H K     緊急事態宣言の延長に関して、教育長さんとしての受け止めと、あと県立学校に関して、分散登校とかもせずに、今のままと思うんですけど、どのような感染対策を引き続き行っていかれたいですか。

教 育 長     分散登校をすることも検討いたしましたけれども、5月24日から6月1日まで、分散登校をやってみてですね、それで済むというようなお子さんもいますが、やはり対面の方がお子さん方の心の健康の面で、これは重要な結論付けております。これはもう、生徒たち、あるいは教職員の皆さんにもアンケートを取った結果、そういうのが如実に現れていましたので。今後、またこれ以上のひどい感染状況になった場合は、急遽、分散登校であったり、〔臨時〕休業というような形を取らざるを得なくなるかもしれませんけれども、取り急ぎ、今やらなければいけないのは、とにかく感染防止です。感染防止というの、改めて申し上げますと、一つは部活です。部活がちょっとできなくなるけどごめんなさいと。それからもう一つは、お昼ご飯の食べ方ですね、これもやっぱり気が緩んでしまうと、喋りながらとか食べてしまうので、前を向いて黙食というのを徹底していただいて。学校によって〔は〕教職員の皆さんも喋れないので、「黙食」という札を持って回っていただいたりしていますし。あと高校生ですので、学校の帰りに買い食いはだめよと。買い食いするとやっぱりその場で〔マスクを外して〕うつる〔可能性が高くなる〕ということなので、ちょっとお腹空いているかもしれないけど、もう我慢して、そのままマスクして帰ってねというふうにしています。これはやはり、学校の日常生活、特に授業というところを対面でできる限り守っていきたいということもあるので、だから協力をお願いしたいと、こういうふうにあります。

N H K     秋の時期は、運動会とか文化祭とか修学旅行とか行事があると思うんですけど、

それへの影響はいかがですか。

教育長 はい。もちろん9月に計画をしていた学校もあるかと思いますが、個人的には10月〔以降〕に少し形を変えてでも、何らかできるような形が取れないかなというふうに思っております。なくしてしまうのは簡単ですが、なくしてしまうことへの子供の心理的な影響〔があり〕、私はこれは、〔子供たちが〕日常ではないところで気持ちが吐き出せる場というのが、学校行事だったり、〔修学旅行での〕宿泊だと思えます。こういった場面がなくなることで、「私さあ」と〔相談したいことを〕言うのをちょっと友達とか先生に吐き出すというような、こういう場面がなくなるというふうに思っていますので。今月はちょっと無理ですけれども、10月〔以降に感染〕状況が良くなって、そのままになるか、縮小されて形を変えるか分かりませんが、なるべくこれは、何らか方策を取って、あるいは感染対策をしてでもやってもらいたいなというふうに思っております。